

第4回アジアビーチゲームズ（2014／プーケット）報告書（水上スキー）

【成績】

| | | |
|-------------|----|------------------|
| 金メダル | 1個 | 個人（安井寿紀・ウエイクボード） |
| 銀メダル | 1個 | 団体（水上スキー） |
| 銅メダル | 1個 | 個人（廣澤沙綾・トリック） |
| 入賞者（4位から6位） | 8名 | （延べ人数） |

■競技報告

①選手選考の経過と本大会への強化策

水上スキーは水上スキーとウエイクボードとに分かれ、連盟も日本水上スキー連盟と日本ウエイクボード協会で別々に運営している。水上スキーは昨年 of 全日本選手権の成績を重視したが、本来3種目（スラローム・トリック・ジャンプ）なのに対して今大会の第4回アジアビーチゲームズ（2014／プーケット）ではスラローム・トリックのみであるためその2種目を重視して選考した。ウエイクボードは現在のプロツアーのランキング上位の選手から選考した。

②現地でのコンディショニング

通常、水上スキーの試合の場合はオフィシャルプラクティスが十分にあるがアジアビーチゲームズでは2パスのみのため予選で安定感を欠いた選手がいた。あと2パス程度プラクティス出来ればだいぶ違うと思うが他国も同様の条件下であるためしょうがない。フィジカル的には日本もしくは海外で仕上げてきているので問題はなかった。スキーサイトは返し波もなく素晴らしいコンディションであった。日本でもここまでのいいコンディションはないだろう。

③各種目の試合経過と戦評

ケーブルウエイクボード

ケーブルウエイクボードはまだ新しいスポーツではあるが2020年の東京オリンピックで正式種目の最終選考に残るなどオリンピック種目に近い種目である。しかし、日本ではケーブルウエイクボードよりもモーターボートを使用したウエイクボードの方がはるかに盛んで選手層も厚い。（なぜケーブルウエイクボードの方がオリンピック種目に近いかは本題に逸脱するので割愛するが端的にモーターボートよりもケーブルの方がより公平感があるということである）今回メダリストを出せなかったことは残念だが現状ではボートに比してバックアップ体制も整っておらずやむを得ない。

ボートウエイクボード

個人で安井選手が金メダルを獲得出来たことに安堵している。

以下安井選手コメント

この様な名誉ある大会で、日本人7個目の金メダルを獲得でき凄く嬉しいです。今大会は気温が30度以上もある中で競技が行われたのですが、風が吹いたり雨が降ったりと、気候の変化にボディコンディション、メンタルコンディションを調整するのに苦労しました。出場選手はやはり各国の代表と言うこともありレベルは高かったですが、誰よりも勝ちに拘り集中し、競技に挑むことができた事が結果に繋がったと思います。

ありがとうございました。

安井選手は優勝候補に挙げられていたが、予選・準決勝・決勝とも集中力もありとても安定した滑りだった。大会前の合宿が順調だったことが勝因のひとつである。一方、団体ではメダルに一步届かなかったがもし出場人数が充足していればメダルは確実にあったので今後出場選手の調整が必要である。

水上スキー

個人では廣澤選手がトリックで銅メダル。団体では銀メダルであった。自己ベストが5人も出るなど成績には満足しているが、団体の金メダルは狙っていただけに非常に残念である。トリックでは韓国に勝っていたがスラロームでの差が響いた男女ともスラロームの長期的な強化が必要である。



水上スキースラローム競技 住田敏之選手



水上スキートリック競技 湯川慎太郎選手



ウェイクボード競技 松浦るみ選手

④競技の総評と反省

試合そのものは数回にわたり激しいスコールがあったものの全般的にスムーズに行われ選手のスコア的にも満足いくものであった。

一方反省点ではないが日本代表選手は全般的に年齢層が高くなってきている。ジュニアを含めた育成が急務である。水上スキー、ウエイクボードとも団体優勝した韓国は長期的視野に立ったジュニアの育成がなされている。見習うべき点が多。

尚、試合の運営上の参考になった点としては下記の通り。

マスターシート：トリックの採点結果をWEB上でアップしていた。ジャッジが問い合わせに対応しなくて良い。

ライブリザルト：個人の成績だけでなく団体戦の換算点計算も瞬時にアップされていた。

■選手村の生活

居住

今回はホテルでの滞在であったため非常に快適であった。特にプールがあったため試合後のクールダウンには役に立った。

食事

ホテルのため全く問題はなかった。IDカードを見せれば良いと思っていたが毎回クーポンを求められた。

前日に予約してあったブレックファストボックスをインドネシアチームに横取りされた。以降はボックスにJAPANと書いてもらった。

宿舎と競技会場の輸送環境

多少時間にルーズなのは織り込み済み、海外はこんなものである。ホテルのトランスポートの係の不在が多く困ったが非常に性格が良いスタッフばかりなのでOKとする。

試合会場の移動では水上スキーは非常に広いエリアで試合をするので会場の入口で降ろされてもかなり長い距離を歩かなければならず会場内での輸送には問題があった。

医療

水上スキーはチームドクターの帯同がないので心配していたがケガもなく終えることができた。試合会場に医療テントはあったがハードのテーピングテープがなかったのには驚いた。

選手団本部との連絡

携帯とメールのやりとりで最初は不安を感じていたが、本部の対応が早いので終わってみると何の問題もなかった。

マスコミ・ボランティア

マスコミに関しては特に取材を受けてない。残念であった。ボランティアの方々ほと

ても性格が良くみんなタイという国が好きになった。ただ英語が話せない方が多く困る場面もあった。

■総括

出発前の選手登録やドーピングについて日本水上スキー連盟としての対応が悪く、JOCに対して多々ご迷惑をお掛けしたことを大変申し訳なく思っている。今大会を契機にチームドクターの設置およびスポーツファーマシストの選定をした。今後とも日本水上スキー連盟として更なるインフラ整備に努め選手を支えたい。

最後に何度も試合会場に足を運んでいただいた斎藤団長、今井さん他本部役員の皆様に感謝申し上げます。

NPO 法人 日本水上スキー連盟

日本代表監督 三輪 久

